東京競馬場に行って詩を書いてみた

競馬 クレプスカ

クレプスカついに出走！



2025年10月11日、現代詩サークル・詩会クレプスカの有志メンバーで東京競馬場に行ってきました。当日はあいにくの雨となりましたがそれもまた味。馬券を握ってのレース観戦はもちろん、中庭のバラ園や競馬博物館、そして競馬場グルメもしっかり楽しみ、それぞれの思い出を詩に起こしました。

詩会クレプスカとは

江古田拠点の詩作サークル。創設11年目になりました。クレプスカ（krepuska）はエスペラント語で「薄明な」の意。詩のアンソロジーを毎年発刊し、文学フリマ等で頒布しています。

Twitter(X)　Instagram　BOOTH（通販）

TAKE FREE

東京 41	1	2	3	4	5	6
枠番	1	2	3	4	5	6
掲載番号	1	2	3	4	5	6
作者名	戸嶋歩	志邑左記	久間木志瀬	ねはかえで	穂高遊	篠尾早那
作品タイトル	一等星	府中おねぼうさんステークス	アイドリーム	祝福	スポーツ観戦	ローズガーデン
作者名フリガナ	コジマアユム	シムラサキ	クマキシセ	ネハカエデ	ホダカユウ	シノオサナ
毛色	鹿毛	栗毛	青鹿毛	青鹿毛	黒鹿毛	青毛
原稿脚質	先行	追込	差し	追込	差し	追込
提出順	○	☆	▲	注	△	◎
産地	東京都	東京都	福島県	埼玉県	東京都	北海道
競馬との関わり	ときどき現地観戦する	ときどき現地観戦する	ときどき現地観戦する	テレビでG1見るくらい	テレビでG1見るくらい	祖父が昔好きだったらしい
好きな馬の名前	ウオッカ	ゴールドシップ、オルフェーヴル、ナムラクレア、ソールオリエンス、クツシタヌゲタ	ハヤヤッコ	オルフェーヴル、メロディーレーン、パンサラッサ、舞台刀剣乱舞の馬	ジャスタウェイ	ゾロアストロ（吟行中に初めて購入した当たり馬券の馬です！）
印象に残っているレース or 東京競馬場でおいしかった食べ物	モカソフト	2022年 天皇賞（秋）	2021年 京都大賞典 鳥千のフライドチキン！！	2022年 天皇賞（秋）	かすうどん！ でも食べたもの全部美味しかった！	かすうどん カスヤ牛すじかすうどん、G1焼き、大穴ドーナツ、鳥千のフライドチキン……etc
コメント	馬の鼻のやわらかさ、その動き、つい考えてしまいます。	三代目トリガミコSISTERSです。今年の収支はもちろんマイナスです。ソールオリエンスの姉です。	いわき市の馬の温泉でリハビリをがんばっている馬を応援しに来てついでにハワイアンズで遊んで帰ろう！	もれなく出遅れゲート難・ナイター◎安定の雨女。	生まれて初めて競馬場に行き生まれて初めて馬券を買いました。三頭選んで単勝で買ったら内二頭が二位と三位でした。楽しかったです。	競馬場も競馬も初体験でしたが、馬にも、人間にもそれぞれの物語がありとても楽しかったです！美味しいものもたくさんありました！

フリーペーパー 東京競馬場に行って詩を書いてみた ／ 2025年11月23日発行 ／ 発行：詩会クレプスカ ／ 編集：ねはかえで ／ E-mail：krepuska001@gmail.com ／ Website：https://krepuska001.stars.ne.jp/ ／ 印刷：自宅

一等星

戸嶋歩

雨にぬれても
ばらの香りがわずらわしくても
すこしもかわらずに
かがやく毛並み
きれいに編まれたたてがみ
色鮮やかな頭絡
その下にあらわれる額の流星は
ちいさな写真でもすぐわかる
きっとぬいぐるみになってもすぐわかる

最後の直線
せまる蹄の音は
地球の心音かと思う力強さ
芝を蹴りあげて坂を駆けあがってくる
きみのからだが突きぬけて
先頭に変わる
流星から後肢の蹄の白さまでが一本の矢になって
コースの真ん中を射抜いていく
叫び声さえ切り裂くはやさで

青とオレンジの勝負服
長靴を履いてゲートイン
煙雨の中出遅れて出走
足元は不良
仕上がりも微妙
先週よりも体重増
透明な帽子を被り
臨時停車で人群(じんぐん)を抜け出す
正門前駅ぽつんとひとり
府中の直線は長いぞ
レインコートに着替えて
気持ちちょっとだけ駈歩で
みんなが見えたらギャロップで
大ケヤキは遠く
雨音より強い歓声が鳴り響く
馬群はまだまだ先
馬券はまたまたガミ
無事ゴール出来たならおやつの時間
左回りのモカソフト
反省会はまたこんど
今日もよくがんばりました

府中おねぼうさんステークス

志邑左記

ハミから繋がる手綱を引くひとに
首をよせて甘える
鼻づらと瞳、くび、はら、脚の毛並みから熱い筋肉まで
多くの手がかれらにふれ
たくさん世話を焼かれて
いまここに降る雨をふくんできらきらさせる

いつか下北のトリキで
競馬は馬がかわいそうだと云われて
言葉をうしなった日のこと
折にふれて蘇る
ここまでやって来てもまだ

絶望に透きとおったからだで
夜明けをじっとみているとき
地をうつ蹄の音が
どこかで目を覚ました仔馬のしっぽが
あるいは一杯の熱いかすうどんが
消えない夢の色で胸にうつる

パドックから出ていった
かれらを追ってレースコースへむかう
サラブレッドのそれより細くたよりない前髪が
弱い雨にぬれていても
いまでもちゃんと歩けている

いまならちゃんと話せる

アイドリーム

久間木志瀬

祝福

ねはかえで

霧雨でも
人工のみどりがまぶしいのは
夢が空気中に混じって
煌めいているからかもしれない
プレミアムG1焼き食べながら
パドックビジョンにならぶ名前を
声に出して読む
縁起よさそうな子の
【がんばれ！(応援馬券)】を買って
ファンファーレ
地響きのような足音が
鼓動とシンクロして
まばたきのあいだに
伝説は塗り替えられる

スポーツ観戦

穂高遊

降ったり止んだりする小雨のなかで
勝ったり負けたりする人たちをみてた

ワイド、馬連、馬単、ボックス
教えてもらったけど
家に帰る頃には忘れてた
ややおもはきっと
あの場所以外でみても読めない

ゴールへ向かう直線で
膨れあがる歓声が怒号のように響く
この一瞬にそんなにも熱くなれるのかと
肌寒さを感じながら思った
馬券ははずれた

降ったり止んだりする小雨のなかで
勝ったり負けたりする人たちをみてた

G1焼き、かすうどん、大穴ドーナツ
全部おいしかったことは
家に帰っても覚えてたけど

ローズガーデン

篠尾早那

門番のようにならぶ
二対のナイトのトピアリーを通り過ぎ
真っ赤なトレーンを広げて
雨粒で着飾ったバラが
寒さに負けることなく
瑞々しくほころぶなかに
蹄鉄で縁取られた円形の噴水が
雨の日も、晴れの日も
ただそこにあるものとして
静かにたたずむ
食べかけのG1焼きが
冷めることすら忘れて
歴戦の名馬の記録を辿り
一瞬の勝負に命を燃やした
彼らの輝きを刻むため
ゆっくりと静かに足をすすめる